カーメイクアートプロ×最新ポリッシャー　シングルとダブル2台あれば全車種全色に対応できる

一流の熟練スタッフだからこそ高く支持する「リョービ」脱着コード式の電子ポリッシャーシリーズ

ボディコーティングからレザーのリペアや張替えまで、多様なディテイリングメニューを手掛けるカーメイクアートプロ。店舗内には磨き上げられたスーパーカーや名車が並ぶ

どんな世界でも「プロの道具」はプロが使うからこそ本領を発揮する。
“磨き”の世界で顧客はもとより、同業者からも注目を集めている大阪の「カーメイクアートプロ」（丸山悦顕代表取締役社長、堺市美原区）。
一流ショップの熟練スタッフは、京セラインダストリアルツールズからリリースされている最新モデルをどのように使いこなすのか。
磨き歴25年の伊藤多加幸氏にシングルアクションとダブルアクションをテストしてもらい、プロならではの視点で腹蔵のない意見を語ってもらった。

「プロが使いたい」ポリッシャー

今回テストしたシングルアクション「PE-202R」（左）とダブルアクション「PED-132」（右）の2台

どの世界でも、プロとDIYの大きな違いのひとつに「高いクオリティで毎日作業し続ける」かどうかがあるだろう。単発のデキならプロ顔負けでも、それを毎日続ける素人はそういない。高い精度はもとより、毎日の作業に高い品質をもたらしてくれるのがプロの道具だ。

伊藤氏が今回、シングルアクション「PE-202R」を使用するなり、まず評価したのもそこだ。「重量バランスに優れていてすわりが良いので、無理なく力を加えられ、それゆえに疲れづらい。よく考えられた低重心と重量配分」と感心の声を漏らした。この製品バランスは昨年、シングル、ダブル、ギヤと3モデル揃ってリニューアルした際に京セラインダストリアルツールズが注力した部分でもあり、操作性の良い補助ハンドルを備えたボディ設計は前モデルを踏襲。「ポリッシャーにはもっと安い製品も数多くあるが、プロが使うとなると磨きづらかったり研磨力が不足していたりと、“使えないポリッシャー”も少なくない。重量や使い勝手、価格面も含めたバランスが秀逸で、プロが使うならこれを使いたい」と、そのパフォーマンスを評す言葉は力強い。

適度な重量で、水平面研磨時も安定した操作性を発揮

増加する水性塗料にも対応する磨き性能

続けて、肝心の磨き性能についても太鼓判を押す。「PE-202R」は、電子制御を搭載し、高負荷でも回転数の低下を抑えている。それにより、「回転を調節する変速ダイヤルを2～3（最大6）で磨いてもしっかりと傷を処理できる。回転を上げなくて済むので切削時の発熱が少なく、最近多い水性塗料への負担も少ない」（伊藤氏）という。さらに、「PE-202R」は昨年リニューアルした「PE-202」をベースに正逆回転機能が追加され今年の4月に発売したモデル。「パネルの境目など位置によっては逆回転にすることで磨きやすくなる」と、使い方次第で作業効率・品質を上げられる特性を示してくれた。

写真左／長年の磨き経験を元に的確なフィードバックをする伊藤氏。写真右／PE-202Rに追加された正逆回転機能はパネル境目付近などで生きるという

一方で、水性塗料の増加を背景に、業界内では発熱しづらいダブルやギアに流れがきているとして、ダブルアクション「PED-132」にも注目。発熱の抑制は、塗装面の負担のみならずコンパウンドの急激な乾燥も防げる。「オービットが小さいこともあり、特に仕上げ時の肌の質感は極めて良好。PE-202RとPED-132の2台があれば、バフやコンパウンドを使い分けることで全車全色仕上げられる」（伊藤氏）とその性能に折り紙を付けた。

負担減らす脱着式コードに堅牢なボディ

また、磨きの作業時はもとより、日常的に使うプロだからこそ利点としたのが「脱着コード」だ。今回テストした「PE-202R」と「PED-132」、さらにギヤアクションの「PEG-132」を含めた3モデルは脱着コード仕様で、コードは各モデルで共有できる。伊藤氏によると、「痛みやすく断線しやすいのがこのコード接続部。収納時にポリッシャー本体へ巻きつけるのが一番ダメージを与えると分かりつつ、ついついやってしまうので取り外せるのは嬉しい」という。

加えて、アルミダイカスト製のプロテクターを備えた堅牢なボディ設計についても言及。「樹脂だと作業場で使用しているうちに削れてしまう。本体の価格が多少安くとも、耐久性がなくて修理費用がかさんでしまう製品もある。コード脱着シリーズは丈夫で長期間使用できそうなので、切削用／仕上げ用と2台組み合わせて使用するのが良いのでは」と伊藤氏。毎日使うプロだからこその機材選びの視点だ。

作業性や収納性のみならず、耐久面でも評価された脱着式コード。コードは3種類の長さ（2.5m/5m/10m）にそれぞれ赤と黒の2色を別売品として展開。※ポリッシャー本体に5mの脱着コード付きもラインナップ。

振動が少なく、若手にもオススメ

性能や使い勝手に始まり、耐久性や製品バランスなど、ポリッシャーを実際に現場でどう使いこなすかを終始意識していた伊藤氏。実は2モデルとも他社製品群に比べて数値上でも振動を抑えた設計となっており、その点についても「手の痺れや体への負担が少ないので、若手や磨きの経験が浅い人にも使いやすいのでは」とコメント。この日、同氏と一緒にテストに参加した若手コーティング職人の桝井氏も、「確かに振動が少なくて疲れづらい。特にPE-202Rを使った時は低速でもどんどん磨ける実感があり、失敗のリスクも抑えられそう。1台、社長に買ってもらいたい」と、はじめて使う製品ながらその性能を十分に堪能した様子だった。

熟練の達人から若手職人まで、それぞれの感性、視点が注がれた今回のテスト。多様な場面に高いパフォーマンスをもって応えた2台のポリッシャーは、まさに“プロの道具“と呼ぶに相応の潜在力を秘めている。そのスペックをどのように引き出し、使いこなすかは、まさにディテイラー次第といえそうだ。

ポリッシャーのインプレッションを話し合うベテランの伊藤氏（右）と若手の桝井氏（左）

こんなコンパウンド、バフがオススメ!

ポリッシャーを使う上で大切なのがコンパウンド、バフとの組み合わせ。水性塗料のみならず、コンパウンドも熱ダレすると急激に乾いたり、キレが悪くなってしまう。伊藤氏によると、「PE-202R」「PED-132」の場合、回転を上げなくてもしっかり磨けるので、スピーディな作業を実現できる「キレが早めのコンパウンド」と「中心穴が大きいバフ」の組み合わせがオススメだそうだ。

THE NEW VALUE FRONTIER
KYOCERA
RYOBI

電源コードが
脱着できる
ポリッシャー
簡単! ワンタッチ
※赤色の脱着式キャブタイヤコードは別売品です。

安定した研磨ができる
100VクラスNo.1のパワー
電子シングルアクションポリッシャー
PE-202 / PE-202R（正逆回転）

磨き傷が出にくい
独自のギヤアクション機構 特許出願中
電子ギヤアクションポリッシャー
PEG-132

回転が止まらない
独自のダブルアクション機構 特許出願中
電子ダブルアクションポリッシャー
PED-132

（写真はPE-202Rです）
回転数：600～2,000min⁻¹
回転数：200～660min⁻¹
回転数：2,000～4,500min⁻¹

京セラインダストリアルツールズ株式会社
お問い合わせはナビダイヤルへ
0570-666-787
電子ポリッシャーの詳細はこちらから！
京セラインダストリアルツールズ株式会社は、リョービブランドの電動工具を開発・製造しています。

「カーディテイリングニュース」 2019年6月25日発売号に掲載。